

3. 文化遺産周遊ルートをつくる —興道寺廃寺跡の活用へ向けて—

諫早 直人・土井 悠起

1. はじめに

福井県三方郡美浜町には様々な文化遺産が点在するが、とりわけ 2018 年に美浜町最初の国史跡となった興道寺廃寺跡は、2002 年以降、足掛け 16 次に及ぶ発掘調査を通じて、東に塔、西に金堂、北に講堂を配置する法起寺式の伽藍配置や、7 世紀後半に創建され、8～9 世紀の再建過程を経て、10 世紀初頭まで存続したことなどが明らかとなっている（美浜町教育委員会 2016 など）。現在、寺域の大部分は田畑の下に埋まっており、往時の姿を想像することは容易でないが、興道寺廃寺やそれを前後する時期に耳川流域に形成された様々な文化遺産は、耳川流域を中心に展開した古代地域社会の実態を垣間見ることのできる生の歴史資料であり、学校教育、地域学習、さらには観光資源としても大いに活用が期待されているところである。実際、これら興道寺廃寺跡を中心とする美浜の文化遺産、とりわけ出土遺物については、美浜町歴史文化館において常設展示されており、同館が毎年主催している美浜町歴史フォーラムなどを通じて積極的な活用が図られている。その一方で、興道寺廃寺跡をはじめとする大地に刻まれた文化遺産（遺跡）それ自体については、国史跡に指定されるなど、保護の措置は取られてきたものの、十分な整備や活用がおこなわれてきたとはいえない。文化財保護法の改正を受け、個々の文化遺産の整備・活用はもちろん、美浜町内に所在する様々な文化遺産を線で結び、有機的に理解するための「仕掛け」づくりは喫緊の課題といえよう。

本稿ではそのような背景のもと、美浜町が「史跡興道寺廃寺跡保存活用計画」の一環で美浜町が現在検討している興道寺廃寺跡を核とする文化遺産周遊ルート案に加えて、京都府立大学案を提示する。さらには、2019 年 8 月 10 日に美浜町、および美浜町歴史文化館みはま土曜歴史文講座受講生の方々（以下、歴史講座受講生）と共同で実施した周遊実験とそれについてのワークショップの結果を報告し⁽¹⁾、今後の課題を浮き彫りにしたい。（諫早直人）

2. 周遊実験の設定と各周遊ルートの紹介

(1) 実験条件

今回の周遊実験にあたって、美浜町で設定した実験条件は以下の通りである。

1. レンタサイクルが完備されている JR 美浜駅（若狭美浜観光協会）を発着地とする。
2. 興道寺廃寺跡と美浜町歴史文化館は必ず立ち寄ることとする。
3. 興道寺廃寺跡と美浜町歴史文化館では通過せず、見学する時間を設ける。
4. 酷暑、雨天等の悪条件を加味しても、2 時間半以内で巡れるルートを設定する。

(2) 各周遊ルートの紹介

上述の実験条件の下、下記の4つの周遊ルートを設定し、周遊実験をおこなった。なお周遊ルート1～3は美浜町歴史文化館が検討中のルートであり、周遊ルート4が文化遺産学フィールド実習にあたって、筆者が中心となって京都府立大学案として新たに提案したルートである(図1)。

・周遊ルート1 (約7.4km。レンタサイクルを想定)

「興道寺廃寺ゆかりの耳別氏の故地を訪れる(1)」

① JR美浜駅→②美浜町歴史文化館→③彌美神社→④興道寺廃寺跡→⑤興道寺古墳群→⑥獅子塚古墳→⑦(松原遺跡)→① JR美浜駅

・周遊ルート2 (約3.2km。徒歩を想定)

「興道寺廃寺ゆかりの耳別氏の故地を訪れる(2)」

① JR美浜駅→②美浜町歴史文化館→③興道寺廃寺跡→④興道寺古墳群→⑤獅子塚古墳→① JR美浜駅

・周遊ルート3 (約10.4km。レンタサイクルを想定)

「文化遺産カードの地を巡る」

① JR美浜駅→②獅子塚古墳→③興道寺廃寺跡→④宮代の六体地藏石仏→⑤彌美神社→⑥青蓮寺大銀杏→⑦国吉城址→⑧若狭国吉城歴史資料館→⑨美浜町歴史文化館→① JR美浜駅

・周遊ルート4 (約9.1km。レンタサイクルを想定)

「耳別氏ゆかりの地を巡る」

① JR美浜駅→②松原遺跡→③獅子塚古墳→④藤ノ木遺跡→⑤興道寺古墳群→⑥興道寺廃寺跡→⑦興道寺遺跡→⑧興道寺窯跡→⑨高善庵遺跡→⑩美浜町歴史文化館→① JR美浜駅

次に各周遊ルートについて簡単に解説する。まず周遊ルート1は、興道寺廃寺を創建したと考えられている地方豪族、耳別氏が深く関わったと考えられている文化遺産を巡るコースとなっている。周遊ルート2は、テーマは周遊ルート1と同じであるが、徒歩を想定しているため、周遊ルート1よりも移動距離が短く設定されており、その分、立ち寄る文化遺産の数も少なくなっている。周遊ルート3は「文化遺産カード」の対象となっている文化遺産を巡るコースである。「文化遺産カード」とは美浜町教育政策課が発行している26種類のカードで、対象となる文化遺産を訪ねて、現地で写真を撮影すると特定の配布場所でその文化遺産のカードをもらうことができる⁽²⁾。本周遊ルートは、興道寺廃寺跡を含む6カ所の「文化遺産カード」対象文化遺産に立ち寄るコース設定となっている。最後の周遊ルート4は、耳別氏にゆかりのある文化遺産を巡るという点では周遊ルート1、2と同じであるが、可能な限り時代順に遺跡を立ち寄れるように工夫し、5世紀末頃、耳川流域に地方豪族(獅子塚古墳の被葬者)が勃興してから、土器製塩(松原遺跡)や窯業生産(興道寺窯跡、高善庵遺跡)といった各種手工業生産などを通じて次第に権力基盤を整え、7世紀後半に興道寺廃寺を創建するに至る過程を理解してもらえるようなルートとなっている。

3. 周遊実験とワークショップの成果

(1) 周遊実験までの流れ

周遊実験は、京都府立大学の学生（11名）と歴文講座受講生（7名）が4班に分かれ、京都府立大学の学生がガイドとなり、歴文講座受講生を一般の観光客に見立てて案内、解説するというかたちで実施した（写真1～3）。周遊実験当日までに京都府立大学の学生が各自担当する周遊ルートで立ち寄る文化遺産について調べ、当日に使用する周遊ルートマップや解説資料などを準備した。周遊実験後には、美浜町歴史文化館でワークショップをおこない、今回の各周遊ルートの課題や改善点を共有する場を設けた（写真4）。

(2) ワークショップの成果

ここからは、ワークショップにおいて参加者から出された意見を項目ごとに整理する。

移動手段 参加者には80代の高齢者もおり、レンタサイクルでの夏場の移動には体面での負担が懸念されていたが、若狭美浜観光協会の自転車の大半が電動自転車であったこともあり、意外にも好評であった。「遺跡が比較的密集しているため自転車で周遊するのに適している」という意見や、「文化遺産だけでなく、田園風景や海、山などの美浜町の美しい自然に触れながら移動できる」、「小回りが利くため近くの様々な場所に足を運ぶことができる」など自転車による周遊のメリットが浮き彫りとなった。また唯一、徒歩であった周遊ルート2の参加者からは、「体力的にきついと感じることはなかったが、自転車に比べると同じ時間で移動できる距離が短いため、若干もの足りなく感じた」という感想も出た。

周遊時間 2時間半という実験条件が適切であったという班がある一方で、時間内に周遊を完了できなかったという班もあった。ガイド役となった京都府立大学学生を含む参加者全員が、今回初めての周遊であったことを考慮すれば、適切なガイドの随行によってより効率よく回れることは確かであるが、一般の観光客がガイドなしで周遊した場合、同様のケースが起これば想定しておくべきであろう。2時間半という周遊時間が適切かどうか、1つ1つの文化遺産の滞在時間や周遊する文化遺産の数については、今後の検討課題として残された。

休憩場所 周遊ルート上に「ゆっくりと休むことができる場所が少ない」という意見が挙がった。周遊実験を実施した2019年8月10日は晴天、最高気温が32度を超える真夏日であったが、各周遊ルート上には日陰が十分に確保された休憩場所はほとんど無く、周遊時間の関係



写真1 文化遺産周遊実験の様子①



写真2 文化遺産周遊実験の様子②

もあって、休憩時間を十分にとることもできなかった。トイレについては周遊ルート上にいくつか確保されているが、少なくとも周遊の核となり、最も多くの人を訪れるであろう興道寺廃寺跡付近には、様々な天候にも対応できるような休憩場所を設けることが必要ではなかろうか。

案内板 地表面上で確認することの難しい遺跡、とりわけ案内板の無い藤ノ木遺跡、興道寺古墳群、興道寺窯跡などについては、「どこに遺跡があるのかわかりにくい」という意見が多数挙がった。また「次の遺跡までの距離や道順などを記した案内板があれば、より快適に周遊できるのではないか」という意見も出た。周遊対象となる文化遺産の案内板整備は喫緊の課題といえるが、それに加えて周遊ルートをスムーズに回れるような看板や標識を周遊ルート上に設ける必要がある。

駐輪スペース 「駐輪するスペースがあまりない」という意見も挙がった。彌美神社や文化施設を除くと、周遊対象となる文化遺産の中で駐輪場が設置されている場所は基本的に無く、道路の脇に自転車を停めて見学するというケースがほとんどであった。町内は獅子塚古墳前方を東西に通る国道27号線を除けば交通量はさほど多くなく、危険な場所は少ないように感じたものの、児童や高齢者が安全に周遊を楽しむためにも、駐輪スペースや周遊ルート上の安全性の確保は課題といえよう。

ボランティアガイド 「今後実際に一般の人が美浜の遺跡をまわる際に、ボランティアガイドがいたほうがいい」という意見も挙がった。美浜町内の文化遺産、とりわけ興道寺廃寺跡をはじめとする遺跡は、基本的に地表面上では当時の様子を把握することができず、初めて来た一般の観光客が遺跡の範囲やその価値を理解することは容易でない。美浜町の文化遺産について知悉したボランティアガイドが周遊ルートを先導し、適宜解説することによって、美浜町の歴史や各文化遺産（遺跡）の概要はもちろん、文化遺産以外の様々な魅力も同時に伝えることができるだろう。

ストーリー性 今回の周遊実験は「ストーリー性が乏しかった」という意見が挙がった。これは、周遊ルートの問題というよりは今回初めて美浜町の文化遺産に触れた京都府立大学学生が各周遊ルートのガイド役を務めたところに起因するところが多い。実際、周遊実験の事前準備にあたっては、多くの班が個々の文化遺産（遺跡）の情報を伝えることに注力し、文化遺産同士を相互に関連付けて解説するという意識は希薄であったように思う。各文化遺産個々の



写真3 文化遺産周遊実験参加者集合



写真4 ワークショップの様子

価値を伝えることは基本であるが、各文化遺産が周囲の文化遺産とどのような関係を持っているのかを上手に伝えるための「仕掛け」づくりは、案内板やパンフレットやインターネットなどを通じた普及・広報活動においても重要な課題となるであろう。

その他の意見としては、「歴史だけでなく自然や特産品などの地域の良さを盛り込んだ周遊ルートにできればなお良い」、「周遊ルート上に美浜の特産品を買うことのできる施設をつくる」、「耳別氏をモチーフにしたマスコットキャラクターをつくってほしい」などの意見が挙げられた。最後に個人的な感想を述べるならば、今回の周遊実験やワークショップを通じて、文化遺産をはじめとした美浜町の特色、良さというものを数多く発見することができた。地元住民、観光客を問わず、一人でも多くの人びとが美浜町の良さを体感する上で、レンタサイクルを活用した文化遺産周遊の有効性は明らかであるが、同時にルート策定や実際の運用にあたってはまだまだ様々な課題が山積していることも指摘しておきたい。(土井悠起)

4. おわりに

興道寺廃寺跡を核とする文化遺産周遊ルートについては、既に美浜町において検討がおこなわれていたところであったが、町のご厚意もあって、京都府立大学独自の周遊ルートの立案から美浜町歴史文化館歴史講座受講生との周遊実験やワークショップの実施に協力することができた。ワークショップでは看板や休憩場所、駐輪スペースといったハード面の問題から、ボランティアガイドやストーリー性をもった周遊ルート設定といったソフト面まで様々な課題が指摘される一方で、豊かな自然の中に文化遺産が散在する美浜町において、自転車（レンタサイクル）の活用が文化遺産周遊のカギとなることが改めて浮き彫りとなった。若い学生たちの「外」からの視点が、有識者や地元住民とは違ったオピニオンとして、美浜町の文化遺産周遊ルート策定に少しでも資するところがあれば望外の喜びである。(諫早)

註

- (1) 本周遊実験とワークショップについては、美浜町歴史文化館 2019 年度第 6 回みはま土曜歴史講座「京都府立大学のフィールド調査に参加する！～学生とともに美浜町の文化遺産を調べよう～」も兼ねている。
- (2) 「文化遺産カード」は様々な文化遺産の周知と活用を目的として、特定非営利活動法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワークが中心となって作成しているカードで、全国で 202 種類、累計 113,340 枚のカードが発行されている(2018 年 8 月時点)。詳細は文化遺産カード公式ホームページを参照のこと(<http://herica.net/index.html> 最終閲覧日：2020 年 2 月 1 日)。

参考文献

美浜町教育委員会 2016 『興道寺廃寺発掘調査報告書』